

日 時：令和7年2月17日(月) 13:30～15:00

場 所：鹿島高等学校赤門学舎図書室

参加者：17名【委員(10名)】【事務局(4名)】【校内委員(2名)】【教育振興課(1名)】

I 学校長挨拶

- キャリア教育、学校評価、高校生ティーチャー、高校生サポーター事業等に関して、運営委員の取組や協力に対する謝辞。
- 令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰受賞について。
- 学校運営協議会のこれまでの取組の振り返りと未来に向けた取組について意見をいただきたい。

II 会長挨拶

- 12月に実施された「SAGA 学校魅力化フォーラム」で、学校長から本校の取組が紹介された。本校の取組が評価をされている。
- 卒業生や保護者、地域の方とともに子どもたちを育てていきたいという学校長の考えのもと、これまでの活動を続けてきた。今後もやることは変わらないと思うので、継続して取り組んでいきたい。また、子どもたちの活動や学校の取組をどのように地域に伝えていくかも検討していきたい。

III 報告

1 事務局から

- 1年間の活動報告
- 成果と課題

(目標1) 「地域との協働による魅力づくりや教育活動の充実を図っていく」

「鹿島さいこうプロジェクト」、「高校生サポーター」、「高校生ティーチャー」、「旭ヶ岡キャリア塾」、「旭ヶ岡キャリアラボ」等、教育課程内・外において充実した活動が実施できた。鹿島市地域おこし協力隊など、鹿島市との連携もさらに強固なものになってきた。

(目標2) これまでにない発想やアイデアも取り入れながら、唯一無二の誇り高い学校づくりに努める。

「旭ヶ岡キャリア塾」については、その活動を軌道に乗せることができた。また、「旭ヶ岡キャリアラボ」は、地域の人や卒業生が生徒の夢さがしの手伝いを行う場所として運営され、ラボスタッフや鹿島市地域おこし協力隊が活動をしている。来年度、「旭ヶ岡キャリアラボ」や鹿島市地域おこし協力隊については、新入生に早めに周知をし、ラボをどんどん活用してもらいたい。

(目標3) 志願者増を目指す。

他校にはない取組が、生徒の学習活動や学校生活への取組によい影響を与えていると思うが、今のところ、志願者増につながるまでには至っていないので、各運営委員の方々からご意見やアイデアをいただきたい。

2 各部会から

(1) 魅力化評価部会

- 学校評価（最終報告）について
 - ・「授業・学習」の指標に関しては、「進度・内容の進度が適当である」と回答した生徒の割合は、97.5%、「授業を通して学力が向上した」と回答した生徒の割合は、95.8%で、成果指標を達成した。
 - ・就職に関しては、就職内定者100%、県内就職率78.1%で、成果指標を達成した。
 - ・「社会に貢献したい」と考える生徒の割合は、93.3%。ボランティア活動については、精力的に活動に参加している。「高校生ティーチャー」には、のべ204名、「高校生サポーター」には、のべ458名の生徒が参加した。
 - ・年4回いじめアンケートを実施し、早期発見、早期対応に努めている。
 - ・自転車通学生のうち、ヘルメットを着用している生徒の割合は、6.8%で、「今後、着用したいと思っている」と答えた生徒の割合は、14.5%。
→ 来年度の指導の工夫を考えていかなければならない。
 - ・交通安全に気をつけている生徒の割合は、99.4%。
 - ・年休の取得率は、昨年度より低下。→ 今後も職員の意識改革と励行を進めていく。
 - ・食習慣と生活習慣に関するアンケートを年2回行い、保健だより等で望ましい食習慣について啓発活動を続けている。
 - ・特別支援教育に関しては、職員間で生徒の情報共有を適切に行ったり、職員研修を行ったりして、特別支援教育の充実を図った。

(2) キャリア教育部会

- 今年度、「旭ヶ岡キャリア塾Stage3」を実施し、午後の部のキャリア別トークセッションの講座数を20に増やした。生徒の感想からも、「旭ヶ岡キャリア塾」が、職業のことだけでなく、生き方や考え方について考える良い機会になっているということがわかる。来年度以降の実施に関しては、運営する側も工夫・改善を重ねていきたい。
- 「旭ヶ岡キャリアラボ」と鹿島市地域おこし協力隊のより良い連携の仕方を検討していく。
- 「旭ヶ岡キャリアラボ」のミニセミナーを定期的開催していく。また、生徒の聴きたい内容を提供していく。

(3) 地域連携部会

- 様々なボランティア活動において鹿島市役所との連携がなされている。
- ボランティア活動の参加者数が年々増加している。今年度の「高校生ティーチャー」の参加者は、高校生のべ204名、小学生はのべ311名であった。また、今年度初めて、地元の中学生のべ13名が参加し、高校生とともに小学生対象に学習のサポートを行った。「高校生サポーター」は、のべ458名（令和7年2月4日現在）にのびた。
- ボランティア活動に積極的に参加した生徒が「第45回善行児童生徒表彰（教育長表彰）」を受賞した。
- 地域で活動する高校生が増えている。積極的に高校生が活動に参加しており、自己有用感も高まっているのではないかと。

- 総合的な探究の時間における「鹿島さいこうプロジェクト」の取組は、市役所・地域の協力を得て、内容が深まっている。
- 地域の方から生徒を育ててもらっている。
- 高校生や学校の負担にならないように活動を続けていきたい。

◎運営委員からの質問・意見

- 「高校生ティーチャー」に参加している高校生は、どのような志をもっている？
→ 将来、教育について学びたい生徒や、学校、保育園など、児童生徒に関わる職業に就きたいと考えている生徒が多く参加している。
- 「高校生ティーチャー」の活動では、小学生が、高校生や中学生と触れ合える機会となり、大変ありがたい。
- 中学生が「高校生ティーチャー」に参加し、高校生と一緒に小学生に学習のサポートをする機会は、中学生にとっても大変よいこと。小学生に学習のサポートをする時間をとるだけでなく、高校生の発想やアイデアなどに触れる時間もとることができれば、もっと鹿島高校生に憧れるのではないか。子どもと子どもの触れ合いを増やすことが大事。
- キャリア塾は大変よいイベントなので、生徒以外の観客をもっと増やせればよい。高校や中学校のみではなく、保護者の方にも知ってもらい、参加してもらいたい。午後のキャリア別トークセッションについても、教室に入って参加してほしい。
- 生徒・職員の負担になりすぎないように、そして生徒のためになるような、唯一無二の学校づくりを学校と一緒に進めていきたい。
- 生徒の活動をもっと外部に伝えるためには？
→ 地域連携部会の中に広報部会をつくるのはどうか？学校の広報部とタイアップするなど。
- 情報発信について→ 若い世代は、インスタやTikTokなどのSNSじゃないと見ないのでは？
一方で、肖像権や個人情報保護等の課題をクリアする必要がある。
鹿島高校のCMを作ってケーブルテレビで流すなど、いろんな方法で情報発信を。
「第8回 佐賀さいこう！企画甲子園2024」で優勝した『鹿島みかん、っ娘。～「廃棄みかん」で鹿島を元気に！～』の企画について
→ 来年度、ぜひ、「みかん甲子園」を実現したい。みかんが特産の県を招待するなど、少しずつ全国的な認知度を高めていってはどうか。